

働く女性のための機能的マタニティウェアの製品開発

藤田 薫子^{*1)}、平山 明浩^{*1)}、大泉 幸乃^{*2)}

1. はじめに

日本の人口減少が始まろうとしているが、将来に渡り社会を支えるためには、高齢者や女性などの社会進出が必要となってくる。今後は高齢者や女性の社会進出を促すような、機能性を重視した衣生活環境の整備や、働きやすい職場環境が求められる。この研究では特に女性の社会進出を支援するため、体形変化の大きい妊娠期間における衣服について、ユニバーサルデザインの視点から取り組み、働きやすく快適な機能的マタニティウェアの製品開発を行った。

2. 内容

(1) アンケートによる実態調査

調査手法：インターネット調査

対象：全国在住 20～39歳女性各 100名(計 200名)

条件：現在妊娠中でフルタイム勤務、過去一年以内に出産経験ありフルタイム勤務していた方

・既存のマタニティウェアの問題点把握。

(2) 妊娠期間中の体形変化について体形調査

(3) リサーチ結果に基づくデザインパターン検討

・トレンドと機能性のあるデザイン、体形変化に対応するパターン展開

(4) 試作品作成、モニター試着試験

試作数：5点(試作アイテム：スカート、パンツ、カットソーワンピース、ジャケット)

試着モニター：6名(都内在住、現在妊娠中でフルタイム勤務の方)

・個別面接調査(着脱、動き易さ、ゆとり、バランス、デザイン、生地等8項目)

上記項目を実施し機能性等の検証を行った。

3. 結果・考察

(1) 製品開発のポイントについて

- ・腹部の運動機能に合致したパターンを作成
- ・腹部の保護、伸縮に配慮し素材を選定した。
- ・体形変化に対応するサイズ調整機能を付加した。

(2) モニター評価、今後の改良点について

- ・腹部のサイズ調整と運動機能について好評価。
- ・素材評価は肌触り、厚み等改良を求める評価。
- ・体形変化への配慮についてはデザイン展開上の制約もあり、今後更に検討、改良が必要。

上記結果に基づき、問題点の改善やサイズ展開等、具体的な製品開発を続けていく。

4. まとめ

今後は、オフィスユニフォームへ、また高価なマタニティウェアの出産後の有効活用(リフォーム)等、研究結果の応用展開を含めた製品開発を行う。共同開発による商品化についても積極的に進めていく。



写真1 試作品例：機能的ワンピース



写真2 着用事例(写真1試作品)